

看護基礎教育における統合実習の事前・事後指導プログラムのテーラリングに関する検討

○小笠原秀人¹⁾ 岡本華枝²⁾ 徳永基与子²⁾ 鈴木克明³⁾
 1)千葉工業大学 2)京都光華女子大学 3)武蔵野大学

現状の問題

- 統合実習における、多重課題に関する授業や演習の細かい規定はなく、各看護系大学に委ねられている。
- 統合実習のキーワードである多重課題は、多くの養成校で定義が明記されておらず、複数の解釈も在っていた。
- 統合実習での多重課題に対応するための教授法と実践プロセスを明確にした学習支援が確立された研究はみあたらない。
- 多重課題における看護実践能力の評価ツールや基準が不明瞭なため、統合実習による学習効果の確かなエビデンスが集積できていない。

提案する統合実習の事前・事後指導プログラム

【多重課題】

2名以上の複数患者を受け持ち、患者に対して流動的に発生する出来事に対し、優先順位を決めて看護行為等を行う必要がある場面に生じる課題

1. 提案する統合実習の構成



2. 事前指導、事後指導の基本方針

- 事前指導では、臨地実習先の多重課題における看護実践を想定できること
- 事後指導では、自分達が経験した内容が反映された振り返りができること

3. 多重課題における看護実践単位と学びのポイント

看護実践の単位 (GOLDメソッド)	学びのポイント
第6段階 ふりかえり (できたことを味わう、改善案)	
第5段階 看護記録・報告 (SOAP・I-SBSR-C)	⑥円滑な協力依頼
第4段階 選択した看護を実践 (プラン赤、プラン黄、プラン緑)	⑤冷静な対応 ④複数患者の安全確保
第3段階 患者に接する (初期評価・変化を判断)	③優先順位の判断
第2段階 患者のところに行く (パット見判断、全体観察)	
第1段階 ナースステーションで頭を整える (トレンド判断・リハーサル)	②複数患者の段取り ①複数患者の状況把握

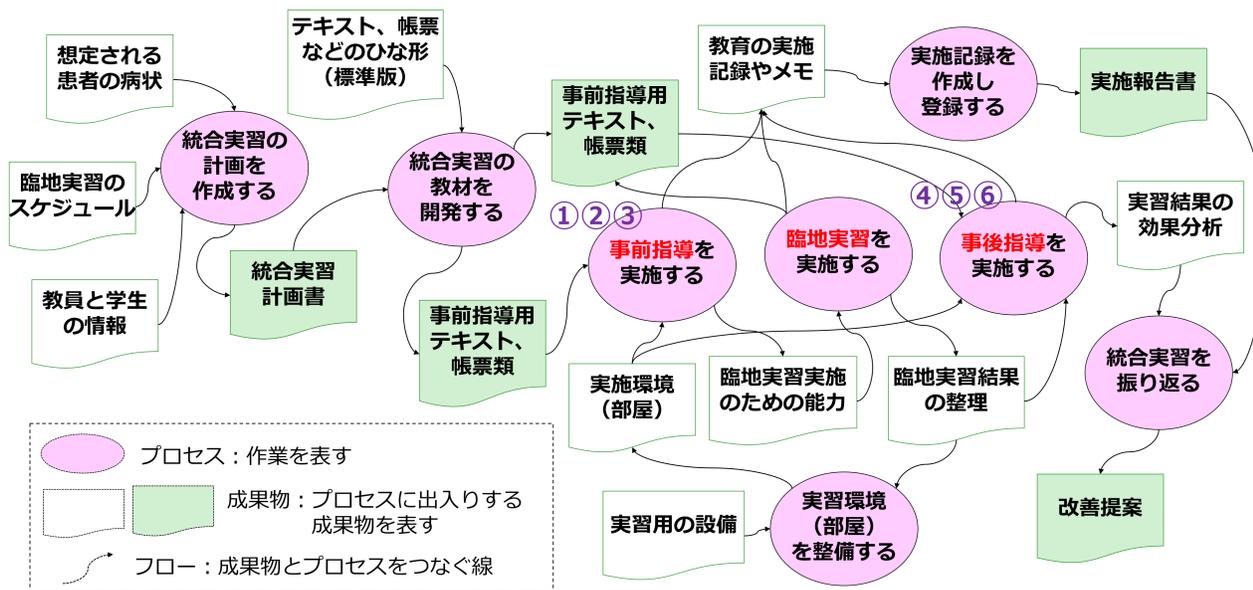
【事前指導】 (主要なポイント: ①②③)

シナリオを進めながら、自然に多重課題や優先順位の判断が身につけていくような設計とする

【事後指導】 (主要なポイント: ④⑤⑥)

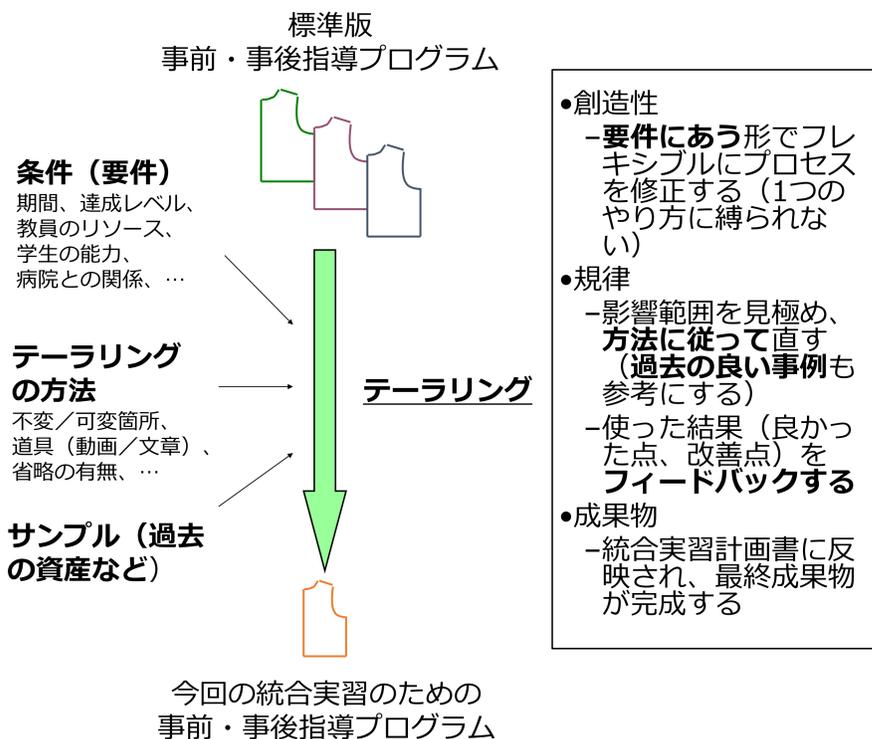
学生が受け持った実習先の事例をもとに第1段階から第6段階に沿って、複数事例を組み合わせたシナリオを用意し、シミュレーションする場とする

4. 統合実習の全体像



テーラリングに関する検討

テーラリングとは?



テーラリングの観点

- 看護の領域
→ 成人、母性、小児、精神などの領域を考慮する
- 役割の分担
→ 看護師役、患者役、観察者の役割分担をどうするか?
- シナリオの作成
→ 臨地実習で担当した患者の情報を参考に患者役の年齢・性別・病状を設定する
- シナリオに組み込む学びのポイント
→ どこにどのような学びのポイントを組み込むのか?
- 実習環境(仮想ナースステーション)の設計
→ 利用可能な部屋や設備に応じて設計する

日本医療教授システム学会
COI 開示
筆頭発表者名: 小笠原秀人

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などはありません。